

「快報 風険消息」は、中国に拠点をお持ちの企業の皆様にお届けするリスク情報誌「中国風険消息」の速報版です。

2020年2月16日

<新型肺炎> 操業再開時における防災上の注意点

現在中国では、官民総力を挙げて新型コロナウイルス肺炎の封じ込めに向けた様々な対応が実施されている。感染予防に関心が集中する中、工場等における操業再開が本格化していく中で、防災対策の軽視や失念が懸念される。本稿では、操業再開にあたって注意すべき防災上の注意点について説明する。

1. 防火対策

(1) 新型肺炎の流行期間に発生した火災事故

事例1	2020年2月7日、広東省茂名市高新区の某石油化学工場において、貯蔵タンクより火災が発生。タンクの底にある計器のサンプリング弁からサンプルを抽出する際、作業ルールに反してペットボトル容器を使用したため静電気が発生し出火した。
事例2	2020年2月11日、遼寧省の葫蘆島市にある経済開発区にある農薬工場で爆発事故が発生し、5名が死亡、10名が負傷した。事故原因はなお調査中である。

(2) 新型肺炎の流行期間において火災リスクに注意が必要な背景

- 外部地域出身の作業者の一部が職場復帰できず、現場の人手が不足している。
- 急遽採用した作業員に対して、入社時の安全教育や消防訓練を実施できておらず、消防に対する意識が薄い。
- 職場内で輪番制等の感染予防策をとっているため、緊急時における防火管理者が曖昧になっている。
- 長期間の休暇・待機明けの作業員が多く、作業に対する注意力が散漫になりがちである。
- 感染防止・健康管理に意識が向きすぎるあまり、防火対策に対する意識が緩みがちになる。
- 長期の操業停止を経て生産再開されるため、生産効率を上げようとするあまり安全に対する意識がおろそかになりがちである。
- 職場で消毒のため多量のエタノールを使用するため、使用・保管時の火災リスクが平時より高い。
- 職場内の人の出入りを管理する必要があるため、多くの出入り口が閉鎖されており、避難や救護、消防活動の妨げとなる可能性がある。

(3) 新型コロナウイルスの流行期間における防火安全対策

工場等の職場では、防火安全の体制や休暇明けの業務再開に関するルールが定められているはずであるが、今般の特殊な状況を踏まえ、具体的な対応ルールを検討する必要がある。以下にそのポイントを挙げる。

1	限られた要員で作業再開にあたらなければならない状況を踏まえ、デイリーで実施する防火巡回の担当者、点検内容、点検場所、点検頻度、点検の記録ルール等を改めて明確化する。
2	職場内で特に火災リスクの高い場所を確認し、防火管理の責任者を明確化する。責任者が不在の場合は代行者を選定し、防火に関する職責や緊急時の連絡ルールを確実に伝える。
3	<ul style="list-style-type: none">・臨時で確保した作業員に対して、現場に入る前に防火に関する研修を実施する。・職場復帰してきた作業員にも防火に関する研修を再実施し、防災意識の引き締めを図る。
4	長時間使用されていない職場の機械設備、保護装置、電気配線等は、雨風や湿気による劣化や、ネズミが配線を噛むなどして異常が生じている可能性がある。ガス配管や液体配管を含め、再稼働する前に必ず異常がないか点検を実施する。
5	消火器、消火栓、スプリンクラー、火災報知設備、ガス漏洩検知器等の消防設備が正常に稼働するか、全面的にチェックを行う。
6	職場内の人の出入りを管理するために施錠する門・扉は、万一の際には速やかに開錠できるよう、予備キーを現場責任者に預けるなどの対応をとる。階段の踊り場、避難通路、非常口、消防車用道路等に通行の妨げとなるものを置いていないかチェックする。
7	エタノールの使用には大きな火災リスクが伴うことを認識し、以下の対応をとる。 <ul style="list-style-type: none">・作業場内に大量のエタノールを保管しない。大量のエタノールは危険化学品倉庫で保管し、作業場では化学品用に防爆対策が取られているラック等に保管する。・静電気除去のアース設置をしっかりと行う。・エタノールの容器は蓋をしっかりと閉め、転倒したりこぼれたりしないよう対策する。・エタノール消毒を行う前に、消毒作業時の注意事項を作業者に周知する。コンセントやスイッチ、電気設備等にエタノールのスプレーを噴射することは厳禁である。高温設備や火気作業を行っている場所の近くではエタノールを使用しない。消毒作業後は換気を行う。
8	長期間の生産停止の影響を受けて、物流倉庫では可燃性のある大量の貨物が滞留している可能性がある。倉庫内の防火巡回を強化する必要がある。
9	職場内で使用する暖房設備と可燃物・易燃物は、安全な間隔を保つ。 すべての暖房器具は、使用が終わったらコンセントを抜くことを徹底する。

2. 寒冷・凍結事故の対策

春節を過ぎたものの、以前北部を中心に厳しい寒さが続いている。また、春が近づくにあたって長雨が続きこともあり日ごとの気温差は大きくなりがちである。3月から4月にかけて寒の戻りが生じることもあり、工場等では凍結事故のリスクにも引き続き注意が必要である。弊社では1月に寒冷・凍結事故の予防に関するリスク情報を発行、対策のポイントを列挙しており以下のQRコードから参照できる。下表はその対策の概要である。



1	室外にある機械設備、貯水設備、水道管、計器類、ポンプ設備等が保温材で養生されているか、保温材に破損や脱落がないか。
2	機械設備や貯水整備、水道管の排出部分に水が溜まっていないか。
3	室外の消火栓、消防配管に対して、綿やフェルト、稲わら等の素材で保温対策が実施できているか。
4	窓や扉に破損や不具合はないか。
5	降雪や結氷の重みにより、テント倉庫等の構造上脆弱な建物等が押しつぶされるリスクがあるため、重要な設備や貨物はこういった場所から安全な場所に移動させる。

以上

執筆: インターリスク上海 コンサルティング部 高級経理 楊奥

瑛得管理諮詢(上海)は、中国・上海に設立されたMS&ADインシュアランスグループに属するリスクマネジメント会社であり、お客様の工場・倉庫等へのリスク調査や、BCP策定等の各種リスクコンサルティングサービスを提供させて頂いております。お問い合わせ・お申し込み等は、下記の弊社お問い合わせ先までお気軽にお寄せ下さい。

<お問い合わせ先>

瑛得管理諮詢(上海)有限公司 (日本語表記: インターリスク上海)
上海市浦東新区陸家嘴環路 1000 号 恒生銀行大廈 14 楼 23 室
TEL:+86-(0)21-6841-0611(代表)